

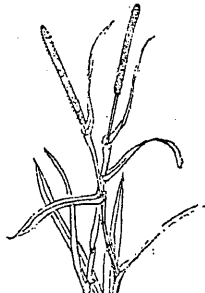


春の雑草

佐々木尚友



スズメノカタビラ



スズメノテマホウ



ホトリスノアザミ



キツネノホソク



コスミレ



アケボノミレ



ホトコサ



ササコサ



キウリノサ



ツネツケハヒ



チチコサ



フシロコ

節分に立春と極寒の候も過ぎて春分の頃ともなると春も愈々本格的、何かこうじつとしていられない気分になつて来ます。日一日と春の装いも軽く戸外に出て、思う存分春の空気を吸いたい気持ちになり、おのずと自然に接する機会が多くなります。木の芽、樹の肌、凡て水を上げ下草も生氣を取りもどして一木一草みな潑刺とした感じを呈してきます。

小鳥は木々に囀り蝶も舞い初めませう。この頃になると子供達も戸外に遊ぶ時が長く自然の内に草木に接し子供は子供なりのするどい観察をします。掘いたずらの一節に、まゝごと遊びの材料に春の雑草はまた子供達のよい仲間であり教材でもあります。春の雑草、庭の片隅に路傍に、それは数限りなく、謂ゆる名もない雑草の仲間を子供に聞かれ返事に困ることも度々です。そこで最も私達の生活の身近に見るものを選び出すまゝ書き綴つて父兄方のなにかの御参考になればと考えます。

一体幼ない子供達に雑草の名を教えてみたところで、……と考へて見ないでもないのですが、それは植物の名を知識として正確に教えることと云うことではなく、子供がその名を知つたことによつて感ずる喜びと、覚えたもの以外に新しく自分の知らない草を探し出すと云う観察力の涵養と云うことにむしろ大きな効があるのではないかと思ふのであります。然し幼ない頃の観察力とその記憶は実に正確でわすれがたいもので、それ丈に名もない雑草の間にも正確な答をあたえてやり

たいと思ふのであります。

ス、メノカタビラとス、メノテツボウ

庭の隅、路傍至る処に見るカホン科の小草で多くの草が枯れ、未だ黄味を帯びている秋冬の頃でも青々としていてすぐ区別することが出来ます。草丈10糎内外で五、六、花の小穂を付け暖かい日溜りなどは冬でも穂を出しています。葉は軟かくよく似た稍大型のものに、カラスノカタビラがあります。この方は少し花が茶褐色を帯びてます。

ス、メノテツボウ、これも原野、野傍に普通に見るもので前者同様子供向な可愛い名前の草でカホン科、草丈、二―三〇糎細い円筒状の長穂を各枝より出し、よく穂先を抜いて表笛のように吹いて遊ぶ草です。

イヌノフグリ

春最も早くに咲いている空色の小花で、ゴマノハグサ科の二年生草木、花は四弁花で一糎弱、手でさわるとすぐに散るもので草丈は一〇糎内外、一面に群生している眺めはまことに美しく愛らしい。オ、イヌノフグリ、タチイヌノフグリの三種があり本物のイヌノフグリは比較的少なく、後者の二種が普通に見られるものでペロニカの一様です。

スミレの仲間

タンポポ、ナズナ、ツクシにレンゲソウ等も春の代表的草ですが、何といつても春の野のスミレは親しみ深いもので一口にスミレといつても我が国には非常に多くの種類があり

百数十種を越しませう。従つてこれらを正確に知るには仲々むづかしい植物です。多くは多年性の宿根でコスミレ(紫色)アオイスミレ(淡紫色)が最も早く咲き、スミレ(濃紫色)ツボスミレ(淡紫色)マルバスミレ(白色)ニオイスミレ(白色小花)がこれに続き人里近くの普通に見られるものです。

ハ、コグサとチ、コグサ

いづれもキク科の植物でハ、コグサは本当はホウコグサと呼ぶのが正しく、二年草、チ、コグサは多年草、いずれもフランドルのように綿毛を被つた厚味のあるピロウド状の白い葉で三、四〇糎大、母子草は黄色、父子草は茶褐色の花を開く母子草は春の七草の御行(オギヨウ)の事で古来その葉を餅に入れたものです。今普通に餅草と云つて餅に入れるのはヨモギの葉で、これも早春の摘草の代表的なものでヨメナと共に親しみ深い植物です。

サギゴケとキランサウ

サギゴケは庭や田地に多く生ずる多年性の小草で、四・五糎大唇状の紫色の可愛い花を咲かせ、これによく似て花の小さいものにトキワハゼがあります。いづれもゴマノハグサ科で、素人によくまちがえられやすい花にこのサギゴケの葉をつめたような型のキランサウがあります。オドリコサウ科の多年草で葉には毛が沢山あり全体に厚ぼつたい感じ、花は鮮紫です。

タビラコとヤブタビラコ

タビラコは一名コオニタビラコと云つてこれも春の七草の一つで仏座ハトウザがこの草です。稍々大きく葉面に毛のあるものはヤブタビラコで、いずれも若草は食用とすることが出来、菊花状の黄色の小花を咲かせ、葉茎を切ると白い乳状の液を出します。

この外早春に目立つ野草 としては黄色い花を咲かせるニガナ、ハルノノゲン、ジシバリなどいずれも切ると白乳を出すもので、白い花にはハコベを初めミ、ナグサ、ノミノフスマなどナデシコ科の植物、ヘビイチゴ、ミツバツチグサ、キジムシロなどいずれも苺に似たバラ科植物で、黄色五弁花を咲かせます。花がこれに似て稍々大きく立性のウマノアシガタ科のものにウマノアシガタ、キツネノボタン、タガラシなどがあり、これは有毒植物ですから特に子供さんたちに注意して教えておきたい植物でもあります。

この外イヌガラシ、タネツケバナ、人参の葉に似た軟かい感じのするムラサキケマン、キケマン、或いはよく似てまぢがいやすい、カラスノエンドウにスマメノエンドウ、その中間の姿をしたカスマグサ、忘名草を小さくしたような、空色の花を咲かせ、葉をもむと胡瓜の香のするキウリクサ、さては種子をとばすカタバミに昔のようなツメクサと早春の雑草も限り無く、数覚えればおぼえる程、興味が出来るものです。

(筆者、新宿御苑、厚生技官)